中学部　家庭生活　家でも挑戦！洗濯干し、自分でできるよ！

小出特別支援学校　中学部　家庭生活Ａグループ　　山本歩　廣川加奈子　吉澤なぎさ

生徒の実態

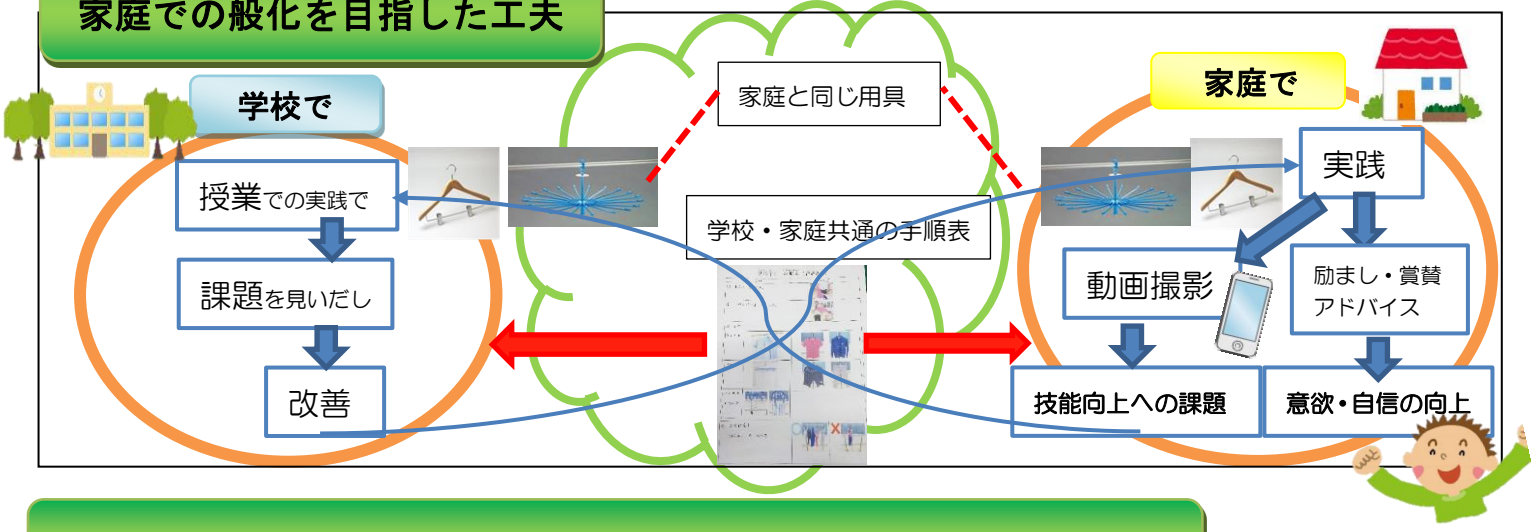
- 家庭では洗濯干しをしていない。
- 種類によって干す用具を適切に選べない。
- しわがあるまま干してしまう。
- ハンガーの使い方が不適切になる。
- 間隔を空けずに詰めて干してしまう。

目指す姿

- 洗濯干しに関する技能を高め、その作業を一人で担うことができる。
- 家族の一員としての自覚を高め、家族から認められることで自己有用感を高める。

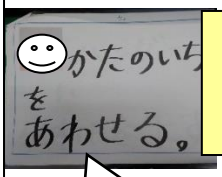
単元目標　手順表を見ながら洗濯物を種類に応じて適切に干すことができる。

家庭での般化を目指した工夫



家庭で一人でできることを目指した授業構成　～１校時の流れ～

①　本時の目標設定



めあてシートを黒板に掲示する。

前時のプレ検定の結果や、保護者からのアドバイスを元に、本時の重点項目を設定する。

②　手順表を使った練習

近くに手順表を置き、順序や用具を自分で確認しながら作業を進める。

手順表に印を付け、本時の重点項目を特に気を付けて練習する。

③検定票を使ったプレ検定

プレ検定

結果の伝達

プレ検定の結果はすぐに伝え、直しの練習に取り組む。

④　発表会

本時の成果をグループ内で発表し、評価し合う。

成果と課題

◎６時間構成の単元の中で、検定票を使って改善点をはっきりさせながら繰り返し洗濯干しを行った結果、５つ程度の課題の中で「用具を適切に選ぶ」等３つ程度の課題は全員が達成でき、技能の向上が見られた。家庭でも、学校で練習した技能を意識して、洗濯干しを手順表に沿って実践する生徒も見られる。

◎手順表の中に用具の写真も入れたことで、衣類毎に使用する用具を適切に使うことができ、家庭での実践に直結した。また、家庭と同じ用具を使うことは、家庭での般化に直結する結果となり、手立てとして有効であった。

▲家庭において洗濯干しを継続的に行っていくにはどのような連携の在り方が必要かを探っていくことが課題である。